

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

箱根病院

思いやりの心で医療に貢献し、患者さんの 「疾患と共生する人生」への支援を目標にする

当院は、「いのち輝く、癒しの病院」をコンセプトとする神経筋・難病医療の専門病院です。10年前は筋ジストロフィーの診療が中心でしたが、私自身、神経難病が専門だったこと、平成27年に「難病法」が制定されたこともあって、難病に特化した病院をつくってもやっていけるのではと考えました。

箱根病院には伝統があり、もともとは戦傷脊損患者の療養の場でした。この療養所の中では患者さんが家族と一緒に暮らし、医師や看護師が回診していたそうです。私は当院へ来たときにその話を聞き、神経難病医療を目指してきたものと合致していると思ったのです。40年以上前から、神経難病医療は在宅医療を中心として展開していますが、箱根病院ではすでにそれが実現できていたのです。そういう歴史を持った病院だからこそ、在宅診療を含め、神経難病患者の療養をずっと支える病院にしたらよいのではないかと思いました。在宅診療が難しくなったとともに、当院には長期の療養ができる療養介護病床があります。在宅医療を含めてフォローし、終末期の緩和ケアまでできるような病院にしていきたい。包括的に、トータルに神経筋難病患者を診ることのできる病院にしようと考えました。

今後の展望ですが、病院としてはまだ改善しなければならないところがあります。たとえば、神経筋の病気は、ALSのような非常に難しい病気でも、治療の選択肢が複数でき、効果が上がってくる時代です。ですから、今後は治験に対応

できるような体制を整えていき、神経難病の治療が進んでいく時代に対応できる病院にしていかなければいけないと思っています。神経筋の難病分野はこれから何十年後には、現在は治らない病気でも、外来で治せるようになる時代を迎えるかもしれません。今の若い先生たちはそういう時代にいると思います。今後は積極的に治療に開拓し、ダイナミックに病気を治していく過程をつぶさに見られるようになる。そんな分野に新しい人材が入ってこないのはもったいないですし、学ぶ側もそこに乗り遅れたら損です。

そういう意味も含めて、今の若い先生方にはもっと貪欲になってほしい。正直、物足りなさを感じる時もあります。職業人生には大変なこともたくさんあるけれども、まずは患者さんを受け持つてほしい。忙しい思いをするかもしれない、でも、貪欲に患者さんを受け入れて欲しい。それは、必ず人として医師としての人生の糧になるはずです。臨床医は、たくさん患者さんを診ること以外に、医師として成長する道はないと思っています。現場で患者さんに人生を教えてもらうことはとても多いです。当院は、最新の医療機器とともに若い先生方を指導する体制が十分に整っていますので、神経内科医を目指す先生に安心して来ていただけると思います。神経内科専門医への研修も支援します。湘南、横浜、東京へのアクセスも良く、歴史があり落ち着いた小田原で、医師として成長するのは魅力だと思います。



院長PROFILE

小森 哲夫 (こもり・てつお)

1978年弘前大学医学部卒業。

1992年都立神経病院神経内科医長、2006年埼玉医科大学神経内科助教授（准教授）、2010年箱根病院特命副院長を経て、2011年同院院長に就任。

日本神経学会代議員、日本臨床神経生理学会代議員、日本神経治療学会評議員、日本末梢神経学会評議員、米国神経筋電気診断学会会員を務める。

また、2016年The Best Doctorsにも登録された。

箱根病院 DATA

■ 所在地

神奈川県小田原市風祭412

<http://hakonehosp.com>

■ 病床数

199床

■ 診療科目

神経内科／内科／整形外科／泌尿器科／リハビリテーション科／研究検査科／放射線科／薬剤科／療育指導室／栄養管理室

■ 研修の特色

一般的の病院研修では経験することが難しい神経難病や筋ジストロフィーの患者さんの診療を学べます。疾患だけを診るのではなく、その患者さんがその方の人生を「生きる」ことの支援に参加できます。

また、がん以外では数少ない緩和ケアチームも活動しています。



病棟の廊下



箱根病院のあゆみ



ミストシャワーの入浴施設



西湘の海、箱根の山も直近な病院立地

箱根病院のある街

都心からのアクセスもよく、見所も多い、何度も訪れたい観光地

「風魔」に関するイベントなども開催している。

全国的に有名な特産品には小田原提灯、かまぼこ、十郎梅や杉田梅などがある。かつて魚市場だった場所は現在、かまぼこの本店が軒を構える。名産の梅みそをつけて食べる、老舗のかまぼこの店13店舗が創作した小田原おでんはぜひ食してほしい。海産物のアジは小田原を代表する魚で、アジのたたきはここが発祥の地だと言われている。片浦地域の人が作るレモンも有名で、このレモンを使つた「片浦レモンサイダー」も人気。最近では小田原産の食材と伝統工芸品の小田原漆器を使うことこだわった小田原丼も人気を集めている。

戦国時代には北条氏の城下町として栄えた小田原市。江戸時代には東海道屈指の宿場町として、また、明治時代には政財界や文化人の別荘地としても親しまれてきた。昔から交通の要として栄え、現在もJRや私鉄などの路線が乗り入れるターミナル駅でアクセスもいい。

見所としては小田原城がある。戦国時代、日本最大規模の城郭だった小田原城は、北条氏の本拠地でもあった。現在は梅や桜が楽しめ、天守閣やお堀沿いの桜並木は見応えがある。天守閣のリニューアル後は外国人観光客も増え、最近の忍者ブームにあやかって北条氏を影で支えた忍者

